

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立新田小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 104 人

② 算数 104 人

5 留意事項

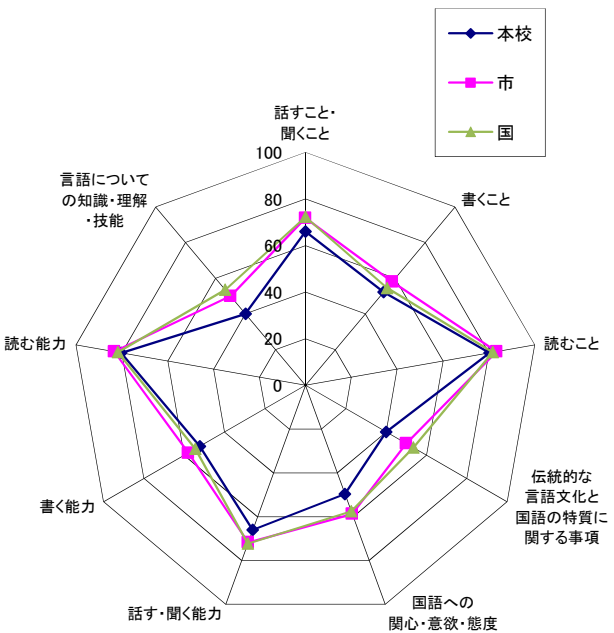
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立新田小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	66.0	71.8	72.3
	書くこと	52.3	58.0	54.5
	読むこと	80.3	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	40.0	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	49.7	58.7	57.6
	話す・聞く能力	66.0	71.8	72.3
	書く能力	52.3	58.0	54.5
	読む能力	80.3	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	40.0	50.0	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	40.0	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

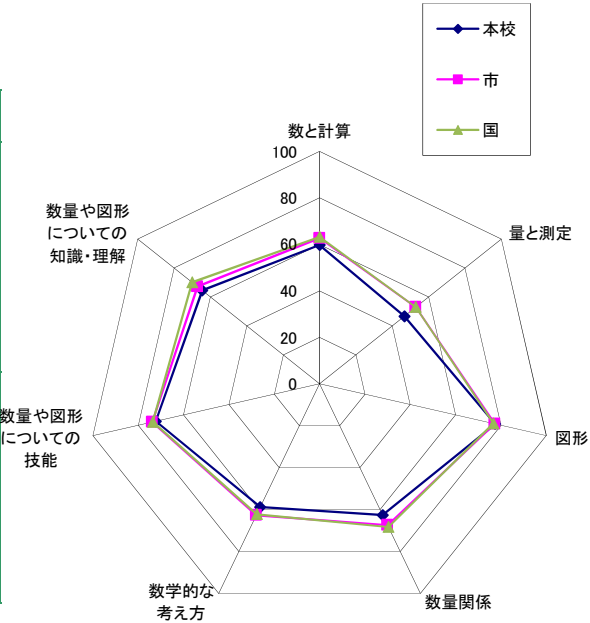
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、国や市より5ポイント程度下回っている。 ○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するために質問することの正答率は、国や市とほぼ同程度である。 ●目的に応じて質問を工夫することの正答率は、国や市を8ポイント程度下回っている。 ●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることの正答率は21.0%で、国や市より約10ポイント下回っている。	・授業の中で、グループでの話し合いの場を適切に設定する。基本的な話し合いのルールを確認しながら役割分担した話し合いに取り組ませる。 ・あらかじめ用意した質問を予定通りに聞くだけでなく、話の内容や相手のニーズに応じて質問を言い換えることの必要性を感じられるような対話的な活動を授業に取り入れるようにする。 ・意図を明確にして質問することにより、必要な情報が得られたか、また、そのために効果的な質問をすることができたかを振り返らせる。
書くこと	平均正答率は、国と同程度で、市より5.7ポイント下回っている。 ○図表やグラフなどを用いた目的を捉える設問の正答率は、国や市と同程度である。 ●目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしとめて書くことの正答率は21.0%と課題が見られる。	・調べたことを報告する文章を書く活動において、自分の考えを伝えるために必要な情報や効果的な資料の活用、相手に分かりやすい表現方法を考えさせるようにする。 ・課題となるテーマや字数など、条件に合わせて適切な文章を書くように指導する。 ・文章を書いた後、必ず読み直して推敲する習慣を身に付けさせる。
読むこと	平均正答率は、国や市とほぼ同程度である。 ○目的に応じて、本や文章全体を概観して読むことの正答率は90.0%で、国や市と同程度である。 ●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読むことの正答率は、国より4.9ポイント、市より6.7ポイント下回っている。今回の問題文は、調べたことをまとめたノートに書かれた文章の内容を読み取るという内容である。文章の中から「理由」を述べる時の接続詞「そのため」から始まる文章を見つけることができない。	・問題の意図に沿った解答ができるように、様々な問題に触れる機会を増やす。 ・中心となる語や文に線を引いたり、大切な言葉をノートに書き出したりする活動を取り入れる。 ・説明文を読む場合、筆者の考えを明確にし、その考えの根拠となることを接続詞を手掛かりに探るという読み方をさせる。 ・疑問文と答えとなる文を見つける、事実、意見などを区別させながら段落構成を考えさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、国や市より10ポイント程度下回っている。 ●文章から意味を考えて、適した漢字を正しく使う問題の正答率は26.0%、文と文との意味のつながりを考え、接続語を使って内容を分けて書く問題の正答率は59.0%である。 ●ことわざの意味を理解し、自分の表現に用いることの正答率は、国や市より10ポイント程度下回っている。	・漢字やことわざの意味を理解した上で、適切に使えるようにする。従来の反復型の漢字練習をするだけでなく、日記や作文、あるいは他教科や日常活動の中で文章を書く機会を捉え、既習漢字を意識して使わせるようにする。 ・語彙力を高めるために、学習前の意味調べなどで辞書を活用する機会を設け、言葉への関心を高める。

宇都宮市立新田小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	59.7	62.7	63.2
	量と測定	46.7	52.9	52.9
	図形	77.5	77.3	76.7
	数量関係	62.6	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	58.8	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	72.3	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	64.5	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、国や市とほぼ同程度である。 ○棒グラフから「数値が何倍になっているか」を読み取ることの正答率が85.0%である。 ○「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方」と「複数の数量から必要な数量を選んで立式すること」についての正答率は、国や市よりやや上回っている。 ●加法と減法の混合した整数と小数の計算についての正答率が42.0%で、国や市より15～18ポイント下回っている。 ●示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することの正答率が21.0%で、国や市より10ポイント程度下回っている。 ●解答類型から見ると、四則が混合した式について正しく理解できていない児童が49.0%と課題が見られる。	・課題解決をするために必要な既習事項を考える習慣を付けさせる。 ・自分の考えを説明したり、友達と意見交換したりすることにより、課題に対する考えを深められるようにする。 ・文章問題の場面を生活と関連付けたり、具体物や図などを活用したりすることにより算数的な感覚を高める。
量と測定	平均正答率は、国や市より6.2ポイント下回っている。 ○図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題の正答率は45.0%であるが、国や市よりやや上回っている。 ●2つの棒グラフから読み取ることができるそれぞれの資料の特徴や傾向を関連付けて答える問題の正答率は、国や市より6～10ポイント程度下回っている。 ●場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断する問題の正答率は、国や市より8～9ポイント程度下回っている。	・図形の面積について、多様な考えを比較検討することにより、思考を深めることができるようにする。 ・他教科においても、単にグラフの数値だけ読み取るのではなく、そこから分かる傾向なども捉えさせるようにする。 ・課題解決のために必要な情報を取捨選択する学習を多く取り入れる。
図形	平均正答率は、国や市とほぼ同程度である。 ○図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成する問題の正答率は、国や市よりも7ポイント程度上回っている。 ●台形について理解しているかを見る問題の正答率は、88.0%と高いが、国より5.1ポイント下回っている。	・合成や分解など図形の構成についての見方・考え方を働かせる場面を設定することで、筋道を立てて考察できるようにする。 ・具体物操作や発達段階に応じた体験的な活動を随時取り入れ、算数的な感覚を身に付けさせる。
数量関係	平均正答率は、国より5.7ポイント、市より4.8ポイント下回っている。 ○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題では、正答率が95.0%である。 ○二つの棒グラフから、異種の二つの量の割合として捉える問題では、正答率が低い、二つのグラフを比べてその理由を答えている割合は91.3%と全国よりもやや上回っている。 ●除法の式の意味を問う問題では、正答率が41.0%で、国より6ポイント下回っている。	・問題を解くための情報を見つけたり、条件に合うように整理して考えたりできるように、多くの文章問題に取り組ませるようにする。 ・式の意味を理解することができるように、線分図やテープ図などを用いて、可視化して考える活動を取り入れる。

宇都宮市立新田小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがある」と回答した児童の割合は82.5%で、国や県と比べて同程度である。「先生は、よいところを認めてくれる」という設問には95.1%が肯定的に回答していることから、自己肯定感が高く、意欲的に学校生活を送っている児童が多いと考えられる。今後も、学習や学校行事などで達成感や有用感をもてる教育活動を推進するとともに、家庭とも連携をとり、子ども達がよさを認められていると感じられるように、指導や声かけの工夫をしたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童の割合は74.8%と、国や県と比べて同程度である。しかし、「学校の授業時間以外に、普段1日あたりどのくらいの時間勉強しますか」という設問には、「1時間以上勉強する」と回答した児童の割合が低いのにに対し、「1時間未満」あるいは「全く勉強しない」と回答した児童の割合は5ポイント以上高い。また、「学校の授業時間以外に、普段1日あたりどのくらいの時間読書しますか」という設問には「1時間以上読書する」と回答した児童の割合は10.2ポイント低い。このことから、自分から進んで課題を見つけて学習したり、読書したりする習慣が身に付いていないことが分かる。今後は、自主学習の仕方について具体的な例を挙げ、一人一人が自分にあった勉強の仕方を見つけ、進んで学習できるよう支援する必要がある。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているとおもいますか」の問いに対して、肯定的に回答した児童の割合が84.5%で、国や県に比べ6ポイント以上上回っている。話し合い活動の成果を感じている児童が多い。

○「算数の勉強は大切だと思いますか」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の肯定的回答は90%以上で、国や県を上回っている。算数の有用性を感じている児童が多い。

●「国語と算数の勉強が好きですか」の肯定的回答の割合は、国語61.2%、算数64.1%と国や県を下回っている。国語や算数に対する学習意欲がやや低いと言える。児童の関心や意欲を高める授業展開の工夫が必要である。

●「国語の問題の解答時間が足りなかった」と回答した児童の割合は30.1%で、国や県に比べ約6ポイント上回っている。問題を読み取る力を身に付けさせる必要がある。

宇都宮市立新田小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「朝の学習の時間」の有効活用	・国語では「言語の知識・理解・技能」についてのプリントを、算数では「宮っ子ステップアップシート」を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の習熟を図っている。 ・担任以外の教職員が支援に入り、TT体制で取り組んでいる。	・国語では、文章や意味に適した漢字や接続詞の使い方、ことわざの意味を理解して自分の表現に取り入れることについての正答率が、国や市に比べ大幅に下回っている。 ・算数では「数と計算」の正答率が、国や市と同程度である。
「本時の振り返り」や「学習のまとめ」の工夫	・キーワードや字数などを指定し、限られた条件の中で自分の考えをまとめられるように指導している。	・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしまとめて書くことの正答率は21.0%で、国や市に比べ大幅に下回っている。
思考を広げたり深めたりするための学習形態の工夫	・生活体験に基づいた導入や学習課題の設定を工夫する。 ・自分の考えを整理し、根拠をもって表現する時間を確保する。 ・友達との意見交換の場を有効に取り入れる。	・目的に応じて質問を工夫することの正答率は、国や市を8ポイント程度下回っている。 ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることの正答率は21.0%で、国や市より約10ポイント下回っている。

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
2教科とも全体的に低い傾向にある。 ・国語科は、領域「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に課題が見られる。 ・算数科は、領域「数と計算」「量と測定」に課題が見られる。 ・2教科とも、問題文にある情報を整理しながら考えたり、条件を満たす文章を書いたりすることに課題が見られる。	・基礎的・基本的な知識・技能を習得させるための「朝の学習の時間」の有効活用 ・適切な「めあて」と「評価」の設定と展開の工夫、及び「まとめ」と「振り返り」の充実 ・思考を広げたり深めたりするための学習形態の工夫	・「朝の学習の時間」において、間違えた問題が確実にできるようになるまで根気強く取り組ませる。 ・根拠を明らかにし、限られた条件に合うように自分の考えを表現させる。また、既習事項と関連付けていたり、発達段階に応じて具体物・言葉・式・図など様々な表現に触れさせ、柔軟な思考体験をさせる。 ・友達との意見交換などの対話的な活動や、日常生活と関連付けた体験的活動などを取り入れる。 ・理科の学習において、仮説や予想を立てたり、考察したりする活動を通して、思考の力を伸ばすようにする。